

10年後の日本の国のかたちとは

－中国天津で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：中国には何をしに行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)9月13日から15日まで、北京から100キロあまり離れた天津で開かれたサマー・ダボス(毎年1月にスイスのダボスで開かれるダボス会議の夏版)と呼ばれる国際会議に参加のためです。85か国から1500名余りが参加。3日間で50余りのテーマが議論されました。

中国政府と天津市が全面協力。ほぼ一年かけてありとあらゆる準備をしたようです。一日目には温家宝氏主催の夕食会、二日目には天津市長主催のイタリアンレストラン街すべてを貸し切ったの歓迎夕食会がありました。

中国や天津市への投資を感謝し、更なる投資を促すためと思われます。世界的な国際企業の経営トップの多くは、天津と重慶で一年おきに開催されるこのサマー・ダボスに合わせて訪中し、自社の中国での事業拠点を訪問し、これからの中国での事業展開を考え続けているようです。

会議の正式名称は、World Economic Forum, Annual Meeting of the New Champions, 2010, 50余りのセッションでの議論の内容はWorld Economic Forumのホームページで紹介されています。是非、御覧下さい。

日本からは、民主党の党首選挙と重なったため政府関係者の参加はなく、河野太郎衆議院議員、竹中平蔵氏、清家篤慶大学長、長谷川閑史武田製薬社長など50名が参加。

Q：天津はどうでしたか。

A：帰路、天津駅から北京南駅まで高速鉄道と呼ばれる日本の新幹線にあたる鉄道に乗りました。最高時速328kmでも横揺れがほとんどなく、100km余りの距離をきっちり30分で結ぶのには感激。料金は58元、満席でした。

人口1000万都市の天津市民の生活は年々向上、伊勢丹やウォール・マートは買い物袋を持った客があふれかえっていました。人々の服装は日本や韓国、シンガポールなどと全く変わりありません。マクドナルドやスターバックス、吉野家電気、自転車は大人気。これも大人気の軽オートバイは1500円で売っていました。

Q：天津で何を考えましたか。

A：経済力や軍事力をめきめきつけている中国の勢いを痛感しました。

中国通貨の元が安く、アメリカの代表が本格的な変動相場制にするようにとの意見が述べられていましたが、まだまだ元安を維持し、その間に少しでも中国の輸出競争力を強化しなくてはと

いう国としての戦略がよくわかりました。

この経済力を背景に米国に次ぐ軍事力を毎年、毎年、大幅に強化し、経済活動を更に活発にしようとの国としての戦略もよくわかりました。

今回の会議のテーマの一つは、グリーン・イノベーションでした。世界の人口の 5 分の 1 をもつ中国は、工業化と都市化がハイスピードで進み、世界最大の CO₂ 排出国になっています。いまや地球は中国と運命共同体。GDP8%以上成長を国是として国力増強を目指す中国は結果として地球を取り返しのつかないものとしつつあります。この状態にどう対処すべきか考える必要があります。

また、沖縄・尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件で見せた中国政府や中国国民の対応を、日本国民は冷静に分析することが求められます。

Q：林さんは何が言いたいのですか。

A：元安をテコにして国としての力をつけ、経済力も軍事力もアメリカに次ぐ世界第二の国になった中国とどのような関係を構築することが日本の国益であるか長期的な視点で考えた上で、戦略的をもって臨むべきです。

中国はいまだに社会主義国、つまり全体主義の国家です。法の支配(ルール・オブ・ロー)とは遠くかけ離れた全体主義を色濃く残した上で資本主義を導入したため、中国の国家資本主義は知的所有権や自然環境、CSR などに余り配慮しないなりふりかまわぬ経済活動を世界中で展開する結果をもたらしました。

私が一番危惧するのは、中国と戦争を含む紛争状況に陥ることです。その防止のために大切なのは、日中の首脳同志と軍隊同志のホットラインを設置し、直接対話の道をつくっておくこと。非常時や緊急時を想定し、正式な外交的な話し合いの場を予めつくっておくこと。日本の自衛隊は、中国軍と合同軍事演習を計画的に行い、軍隊同志でも友好関係を築き上げて軍の暴発を防止すること。河野太郎氏は、日本は NATO に加盟すべしと会議で述べていました。私も大賛成です。同時に、中国が主宰する上海協力機構にも積極的に参加し、友好関係を深めることです。

中国からの日本への留学生は 10 万人単位でもっともっと招き、留学生として親切にもてなし、日本で学び中国で活躍してもらおう。中国からの観光客も 1 千万人単位でどんどん日本にお招きし、日本の良さを知ってもらおう。

戦争は心の中で生まれるものであるから、心の中に平和の砦(とりで)を築かなければならないというユネスコ宣言を、今こそ中国との友好関係強化のための指針にしたらどうかと考える。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A：中国の人々の英語の上達スピードには舌を巻きます。この会議のためにボランティア活動をして下さった 1000 名以上の若者の多くが、極めてきれいな標準的英語を話していました。

去年 6 月に行われた定員 630 万人の大学統一入学試験の受験生は初めて 1000 万人を越し、1020 万名になったと伝えられています。大学の 1 学年を 1000 万名にするという計画は着々と進んでいます。

中国は、中国全土で教育に最も熱心な国になりつつあります。元気な方は、中国のスミズミで中国の皆様のために学習塾、予備校、私立学校をどんどん開校。同時に、孔子学院に負けないよ

う中国での日本語教育も大いに行って頂きたいと希望します。中国からの日本への留学生をアルバイトで講師として採用し、優秀な方をマネージャーとして中国の故郷で活動させるのも一つの方法です。

中国の学習塾や予備校、私立学校の皆様と交流を促進することも、我々のできる日中平和構築と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：15年前に出版されたコリンズ先生の名著「ビジョナリー・カンパニー」の第三巻「衰退の5段階」が8月下旬に日経BP社から出版されました。私は1か月かけて一巻から三巻までをノートを取りながら何回も読み直しています。永続するビジョナリーな学習塾、予備校、私立学校をどのようにつくり上げることができるか。御関心のある先生方は、是非、各巻を2～3回ずつ御熟読下さい。必ず役に立つと確信します。

－ 2010年9月27日記－